

SSKR まうんてんえこお

No.307

社会福祉法人 練馬山彦福祉会

本部

〒177-0034 東京都練馬区富士見台2-19-9
TEL(03)3998-5023 FAX(03)3998-5035
<http://nerimayamabiko-hukushikai.jp/>

山彦作業所(就労継続支援B型)

〒177-0034 東京都練馬区富士見台2-19-9
TEL(03)3998-5023 FAX(03)3998-5035
Email: ymbk@mvi.biglobe.ne.jp

山彦相談支援事業所(相談支援)

〒177-0034 東京都練馬区富士見台2-19-9
TEL&FAX(03)3970-2365
Email: ymbksoudan@xqd.biglobe.ne.jp

やまびこ第二作業所(就労継続支援B型)

〒179-0081 東京都練馬区北町7-20-36
TEL(03)3933-8935 FAX(03)5398-7681
Email: ymbk2@mue.biglobe.ne.jp

やまびこ第二相談支援事業所(相談支援)

〒179-0081 東京都練馬区北町7-20-36
TEL&FAX(03)6906-9803

ワークショップ石神井(就労継続支援B型)

〒177-0041 東京都練馬区石神井町7-17-4
TEL(03)5923-9811 FAX(03)5923-9812
Email: work@msd.biglobe.ne.jp

チャレンジワークやまびこ(就労移行支援)

〒177-0041 東京都練馬区石神井町7-17-4
TEL(03)5923-9864 FAX(03)5923-9865
Email: c.w.ymbk@xvg.biglobe.ne.jp

ワークショップ石神井相談支援事業所(相談支援)

〒177-0041 東京都練馬区石神井町7-17-4
TEL(03)5923-9818 FAX(03)3997-3650
Email: wkcs@kzh.biglobe.ne.jp

やまびこ三原荘(共同生活援助)

〒178-0063 東京都練馬区東大泉
TEL&FAX(03)3978-6352
Email: miharaso@mue.biglobe.ne.jp

お誕生月おめでとう!!



やまびこ三原荘

目次

- 表紙 やまびこ三原荘
- P2 山彦・やまびこ第二 近況
- P3 ワーク・チャレンジ 近況
- P4 三原荘・相談支援 近況
- P5 やまびこのペン(職員より)
- P6 やまびこのかぜ(メンバーより)

誕生会

グループホームやまびこ三原荘では、誕生月の入居者を祝う、「誕生会」を実施しています。上は7月の写真です。

通常は全員で集まり、ハッピーバースデーを歌い、みんなでケーキを食べながら過ごす時間でしたが、コロナ禍のため、現在は感染対策をとり、小グループで行い、歌の代わりに音楽を流し、拍手でお祝いします。

以前のようなハッピーバースデーを全員で歌うときの雰囲気が一番グループホームらしくて良いと思っていました。今は、それは叶いませんが、誕生月の人を祝う周りの入居者の気持ち、喜ぶ入居者の笑顔は共同生活において良いものだと感じています。

(世話人 佐藤)

山彦作業所 近況

コロナ禍2年目の夏。今年も夏休み前に少しでも楽しんでもらおうとミニ納涼祭を行いました。お昼にさっぱりと冷やし中華を食べて、午後からお菓子やアイスを食べ、レクリエーションとしてビンゴゲームをしました。

景品は暑い夏を乗り越えるためアイスタオルを用意しました。好きな色を選んでもらい利用者の好みを知ることができました。



した。利用者もとても喜んでおり、笑顔が沢山あふれていました。

二枚の写真は、コロナ禍の中なので皆同じ方向を向いての作業やレクリエーションの様子です。

レクリエーション終了後は夏休み前のもう一つの楽しみ夏季賞与を渡しました。2度目の我慢の夏となりましたが、「早くコロナが終わりいつもの日常に戻りたいね」と利用者・職員が思っております。（村上）



やまびこ第二作業所 近況

去る7月7日の七夕の日に、メンバー、職員がそれぞれの願い事を短冊に書いて笹に掛けました。

短冊には、「早く（新型コロナ）ウイルスが収束して」バスレクに行きたい」という願い事が沢山書いてありました。この2年越しの切なる願いが、1日も早く叶いますように。（見米）



ワークショップ 石神井 近況

新型コロナウイルスの感染拡大が一向に収まらない昨々、ワークショップ 石神井でも、昨年からバザーや旅行などほとんどの行事が中止となっています。

そんな中、夏休み前の一日、「作業所内でDVD鑑賞とゲーム大会」というなかなかの企画を実施しました。密を避けるため、3階建ての建物をフルに活用し、1階でゲーム、2階・3階でDVD鑑賞をしました。参加者はそれぞれ希望のフロアに分かれて映画やゲームを楽しんでいました。

2階 3階は静かに映画鑑賞が行



3階は「君の名は」を上映中

われていた中、大盛り上がりだった1階のゲーム大会。ゼンガや卓球、黒ひげ危機一髪、そして東京パリンピックで話題となったポッチャもやりました。ポッチャはみんな初めてでしたが、ルールもわかりやすく、難しい動きもないので、誰でも楽しめる大いに盛り上がり、楽しむことができました。



1階ではポッチャに興じる所長

楽しいひと時を過ごした後、美味しい食事といきたいところですが、感染予防のため、今年もみんなでお会食と「いつわけいよいきませんでしたので、美味しいお土産をもってお開きとなりました。

先の見えない「コロナ禍で、このレクが少しでもみんなの気分転換になり、明日からも頑張ろう」という前向きな気持ちを支えることが出来ているとよいなと思っています。(渡辺)

チャレンジワーク 近況

接客販売の体験プログラムとして、9月16日に練馬区役所の1階アトリウムで行われた「練馬区障害者施設 自主生産品等販売会」に参加して参りました。販売した商品はワークショップ 石神井の生産品「ハーバリウム」と「手作りリース」です。今回はその様子をご紹介します。

メンバーのYさんが、この体験プログラムに参加しました。準備するにあたり、「働くイメージ」を一緒に考えていきます。ご本人の接客イメージは「いらつしやいませ」「ありがとございます」をしつかり言うこと。このイメージを大事にし、販売会では何が必要になるかを考えると、「開催内容、経路、商品説明、道具、釣銭、タイムスケジュール」等々。これらを組み立て「接客するまでの準備」が段々具体化されました。さらにタブレットを使ったレジ入力も練習していきます。

タブレット等の機械操作は苦手なイメージのある方も多いのですが、実際には操作箇所が限られ、またお店等での利用を目的にしていることから練習を積み成功体験を得ると、早期に操作の定着が進むこ

とがあります。「押し間違い」は落ち着いてキャンセル操作が出来ることが出来ると、皆安心して取組むことが出来るのです。そのことを丁寧に支援します。

販売会の事前練習に、ワークショップ 石神井のメンバー、職員、実習生を顧客に見立て練習し「接客」に自信と安心感を持ち、販売会に望みました。当日は次第に商品説明がスムーズになり、おすすめの商品を答えたり、何と言っても表情が和らぎ笑顔が増えていきます。本人の振り返りでは大事に意識したこと、「心を込めて行つた」を挙げられました。働くにあたり挨拶や言葉だけでは無い大事なことの学びがあったようです。

この職種体験は、働くにあつての主体的な気付きや想い、就労への意識を学ぶ場として貴重な体験の場となっています。



マスク越し、シート越しでも表情豊かに接客中

やまびこ二原荘 近況

6月から9月にかけて、3名の入居者が「通過型」(原則3年間)の期限を迎えて、それぞれが次の生活の場へ移行されました。

健二さん(仮名) 54歳は、知的障がいにより、金銭管理や喫煙のコントロールが苦手でした。食事を抜いてお金を浮かし、多いときは1日に3箱喫煙することもありました。少しずつお金の遣い方のパターンを身につけました。関係者との支援で、血圧を下げるために1日1箱にする決めて、自身で喫煙のコントロールができるようになりました。豚キムチ、焼きそばなど自身で調理できるようになり、とても嬉しそうでした。滞在型へ生活を移行されました。

美智子さん(仮名) 63歳は、「全般性不安障害」があり、常に漠然とした不安がある生きづらさがあります。掃除が得意で、新しい入居者が入ると、掃除の仕方を教えてくれたり、他の入居者の体調が悪いと気にかけてくれる優しい人です。毎朝、交

入室で入居者、世話人と一緒にコーヒーを飲む時間が好きでした。ケアハウスへ生活を移行されました。

孝明さん(仮名) 56歳は、服薬を忘れがちなため、週に2回の訪問看護の支援を受けました。周囲の人を思いやる優しい人柄です。入院した入居者へお見舞いのハガキを送り、受け取った入居者はとても喜んでいました。退居後も時々再会しようと2人で約束をしたそうです。入居者、世話人と最後に好きな釣り堀を楽しむことができました。滞在型へ生活を移行されました。

期限の3年が迫り、生活環境が変わる節目は、入居者にとって大きなストレスがかかります。無事に次の生活の場が見つかるのか、引越越しの際に諸々の手続きができるか、住み慣れた街を離れるのか等。生活上の苦手なことに取り組む3名の姿を側でみてきた世話人としては、次の生活環境にも慣れて、必要な支援を受けながら今後もその人らしく笑顔で生活を送れるように願っています。

(世話人 佐藤)

相談支援事業所 近況

相談支援事業所は、障害福祉サービスの利用を希望する人に対してサービス等利用計画を作成します。計画作成の後は支援状況の確認(モニタリング)を行い、計画の見直しが必要かどうか見ていきます。

計画作成やモニタリング時、それ以外の時期でも利用者・家族などから様々な相談を受けています。

相談の内容は、通所先を変えたい・ヘルパーを利用したい・就職するために訓練を受けたい・グループホームに入居したいなどの福祉サービスに関するだけでなく、金銭管理ができない・糖尿病になった・親子喧嘩した・家出した・障害基礎年金の申請を手伝って欲しい・等々、生活や健康、対人関係など様々な問題について相談があります。数々の問題の中で今、気になるのは福祉園の送迎バスエリアの変更に伴う問題です。通所バスの乗車時間が長いという意見を受けて、区は利用者の心身への負担や災害時の対応など様々な面から検討した結果、

福祉園送迎バスの運行エリアを整理することになりました。

これによって乗車時間は1時間以内に抑えられるようになりませんが、送迎ルートから外れてしまった人は転園(移籍)を余儀なくされます。転園せずに通い続けるためにはバスが運行されている離れた場所まで家族が送迎しなくてはなりません。

苦渋の判断に迫られた一部の利用者や家族は「運が悪かった。少数の犠牲は仕方ないこと」と諦めるしか方法がないのでしょうか？

登園先が変わることで本人は強いストレスを受けることが予想されます。また、選択の自由・意思決定支援の観点からも長年通い慣れた大好きな福祉園に通い続けることができれば良いと考えます。掛け替えない場所へ変わらずに通い続けられる方法を他の支援者と共に模索したいと思います。(上之原)



やまびこのペン

山彦作業所

松田 真生

近代五輪史上初の延期が決定した「2020年東京オリンピック・パラリンピック」は、2021年7月23日に開幕し、たくさんの方の感動とともに幕を下ろしました。しかしオリンピック開幕までには新型コロナウイルス対策、オリンピック組織委員会のトラブル、失言、辞任等、たくさんの方が浮き彫りとなりました。開催には賛成、反対の声が上がり「なぜオリンピックはよくて国民は我慢ばかり強いられるのか？」という国民の意見をメディアが連日取り上げ、報道している事が多かったように感じます。また大会楽曲制作へ参加していたK氏の報道も大きな問題となりました。この問題に関して「一般社団法人全国手をつなぐ育成会連合会」がいち早く声明を発表し、重要な問題点を指摘しました。声明の中で「今般の事案により、オリンピック・パラリンピックを楽しめない気持ちになった障害のある人や家族、関係者が多数

いることについては、強く指摘しておきたい」とあり、社会的に大きな意義と反響がありました。

東京オリンピックの開催、延期、中止が議論される中で「オリンピック憲章」にも注目が集まりました。そもそもオリンピック憲章とは何なのか。東京オリンピック、パラリンピックガイドのサイト内で調べてみるとオリンピック憲章とは「五輪のあり方や運営の仕方などをめた規約。その中にオリンピックイズムという7つの柱があつて、肉体と意志と精神のすべての資質を高め、バランスよく結合させる生き方の哲学であることや、スポーツを文化、教育と融合させ、生き方の創造を探究するものであること。スポーツを平和な社会の推進に役立てること。スポーツをすることは人権の一つであり、いかなる差別も受けることなく、すべての個人がスポーツをする機会を与えられること。それには友情、連帯、フェアプレーの精神とともに相互理解が求められること」と記されています。このオリンピック憲章を知ると、選手達はオリンピック開催の延期、コロナ禍での開催で身体的、精神的にも相当な苦勞があつたのではないかと…。考えれば考

える程この根本原則に則つた選手達の「想い」にたくさん注目してほしいと感じました。しかし先述の問題ばかりが目立つたしまった事も事実です。問題や課題を取り上げることが悪いことだとは思いませんが、少し寂しく感じた東京オリンピックでもありました。様々な事があつた東京オリンピックでしたが大会を通して改めてスポーツの力や夢に向かう選手の姿に感動をもらい、胸が熱くなった2021年の夏でした。この原稿を書いているのがちょうどオリンピックが開幕し、パラリンピックの開幕前です。パラリンピックではどのような感動があるのか楽しみでなりません。

TOKYO OLYMPICS



話は変わり、少し個人的なお話

私は色々な縁があり現在の支援員という仕事に就きました。気が付けばこの仕事をして10年が経ち、本当にあつという間で驚いていま

す。大変な事もたくさんありましたが、日々目標に向かって同じベクトルを向く仲間がいる事、何より常に前向きなメンバーに勇気づけられている自分がいます。今の自分があるのは職員、メンバー、家族、支えてくれた、たくさんの人達がいてくれたからだだと改めて実感しています。本当に出会いは感謝ですね。これからも支援に携わる者として、支援とは何か、寄り添う事とは何かを再考し、はきちがった支援をしないように、日々向き合っていけたらと思います。自分の強さを誇張するより、弱さを受け入れ、前に進むほうが成長できるのではないかと。年齢を重ねて、そう感じている今日この頃です。



やまびこのかぜ

まえがき

前々号(304号)でご紹介したT・Mさんの『やまびこのかぜ』。発行後、読者の皆様より、「ご退院されてからの日常などが知りたい」、「お元気にご退院されて、おめでとうございませう。今のご気分はいかがでしょうか?」等の温かいお声を沢山いただきました。この旨をT・Mさんにお伝えしたところ、「有り難うございました。とても嬉しいです。今の気持ちを伝えたいと思います」と快く原稿を書いていただきました。

やまびこ第二作業所

T・Mさん(利用者)

退院しました!!!

前半

手術から約半年が経った。術後の検査結果は異状なし。ひとまず安心。やまびこ第二作業所といったら、皆それぞれ自分の背に負った生活で走り回っている。コロナ問題もあり、今まで以上に職員さん達もナーバスになっている。さて、自分も癌意識は少なく、現実生活の重みを背に感じる。作業所の仕事も安定しつつ、入荷してくる。通所者達も出席率が

元に戻りつつある。

私も64歳。命の先の「薄明かりが見えてきて、姉とともに終活が生活の中に大なりという感じた。

そんな忙しい生活の中で、私は自分の人生に確かなものを残したいと思っている。『ヒヨウは死して皮を残し、人は死して名を残す』などという言葉が頭の中にめぐっている。いつまでも、自意識過剰な自分。あと何年生きられることやら。

弱冠 24才の頃の私、少しグレヲタ!



後半

前半が「あと何年・・・」で終わったのは、何か尻切れトンボみたいなので、もう少し続けます。前回にも書きましたが、作業所の気風で不良から仏に変わった

経緯はご理解いただけたいと思います。時間的には30年ぐらいかな。山あり谷ありでした。勲の影にも、涙あり、で、でした。

そして、「将棋道」精神がツイタのは至上の喜びです。「柔よく剛を制し、弱よく強を制す」。これは古代中国の古典から来た物です。蛇足ですが、この言葉は恋愛にもいえるものです。

(もう) つづかない(かな?) (END)

・今も元気に作業所へ通所されています



編集後記

新型コロナウイルスが収束しない中で東京オリンピック、パラリンピックが開催されました。一年延期になった状況下においても、アスリートの方々が一生懸命、競技に取り組んでいる姿を見て心から感動しました。(見米)

編集人

社会福祉法人
練馬山彦福祉会

東京都練馬区
富士見台2-19-9
TEL(03)3998-5023

発行人

障害者定期刊行物協会

東京都世田谷区
祖師谷3-1-17
ヴェルドウーラ102号室

頒価 20円